田中 唯登志 議員

SDGsに向けた今後の取組は

岡崎総務課長

地方創生の進化につなげて行きたい

問 SDGsの概要は。

岡崎総務課長 SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟国193カ国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標で構成されている。

❶貧困をなくそう
❷飢餓をゼロに
❸全ての人に健康と福祉を
❹質の高い教育をみんなに
❺ジェンダー平等を実現しよう
❻安全な水とトイレを世界中に
❼エネルギーをみんなにそしてクリーンに
❽働きがいも経済成長も
❾産業と技術革新の基盤をつくろう
❿人や国の不平等をなくそう
⓫住み続けられるまちづくりを
⓬つくる責任使う責任
⓭気候変動に具体的な対策を
⓮海の豊かさを守ろう
⓯陸の豊かさを守ろう
⓰平和と公正をすべての人に
⓱パートナーシップで目標を達成しよう

問 SDGsの理念を施策に取り込めるか。

岡崎課長 自治体の代表的な例として「人口減少と高齢化問題」を捉えることができる。この課題を放置すれば「エネルギー・通信・水環境・交通・医療・教育」などすべてのインフラにおいて、財源と担い手が減少し、地域サービスの維持が困難になることから、地方創生においてもSDGsの活用が重要課題であると認識している。

問 持続可能なまちづくりに向けた今後の取組は。

岡崎課長 地方創生の進化では、中長期を見通した持続可能なまちづくりに取組むことが重要である。地方公共団体におけるSDGs達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するものであり、町長より施策検討の支持を受けている。現在、先進的な取組は29都市において SDGs未来都市として選定され、中でも先導的な取組の10事業をモデル事業として支援と成功事例の普及展開を行っている。本町としていかに取り込めるか、様々な研究を行い、地方創生の進化につなげて行きたい。

放課後児童クラブは

問 放課後児童クラブの施設ごとの現状は。

垂水(英)子ども未来課長 別表参照

問 大平放課後児童クラブは低学年において待機児童がいると聞くが対応は。

垂水(英)課長 大平児童クラブでは、現在利用を待っている児童がいる。当課の対応としては待機名簿を作成し、利用中の児童が退所し、空きが生じた際に連絡をするということで、保護者に説明している。

問 唐原小学校に放課後児童クラブ設置の検討は。

垂水(英)課長 昨年度より大平放課後児童クラブの運営委員会や唐原小学校コミュニティスクールの委員より児童クラブ設置について要望を頂いている状況にある。本町としては、この校区における児童の搬送も今後解消すべく、単独の児童クラブに向けて検討している。また、児童数・利用児童数の推移や今後の見込、民営化を含む受入体制など十分検討し、方向性を定めていきたい。

放課後児童クラブ　施設毎の現状　(人)

クラブ名称	定員数	校区	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	職員数 常勤	職員数 補助
南吉富(低学年)	40	南吉富	29	11					40	2	7
西吉富(低学年)(南吉富児童含む)	40	南吉富	1	2					3	3	8
		西吉富	16	10	16				42		
西吉富(高学年)(南吉富児童含む)	40	南吉富			11	7	1	1	20		
		西吉富				5	2		7		
大平(低学年)(友枝小・唐原小混合)	40	友枝	15	9					24	2	6
		唐原	8	8					16		
大平(高学年)(友枝小・唐原小混合)	40	友枝			8	8	4	2	22	2	7
		唐原			5		1		6		
総合計	200		69	40	40	20	8	3	180	9	28

茂呂 孝志 議員

佐井川の河川整備計画は

尾崎建設課長

県に毎年要望活動を行っている

問 佐井川河川整備で、これまでに町が県に要望した内容と県の河川整備計画はどうなっているか。

尾崎建設課長 佐井川の河川整備については、毎年郡町長会、県議会議員を通じて要望している。また、町長も知事、県土整備事務所長に要望活動を行っているが、県からは佐井川の整備計画はないと回答を得ている。

問 最近の台風の激甚化を踏まえ、過去に囚われない対策強化が求められている。そこで、各避難所に発電機は確保されているのか。

岡崎総務課長 避難所は、一次避難所、二次避難所合わせて7箇所ある。大平支所には非常用電源があり、他の施設は3台のポータブル発電機での対応となる。

▶大平支所非常用発電機

問 山国川の増水で、全ての樋門を閉じた場合、内水を排水する設備はどうなっているのか。

岡崎課長 唐原地域の内水排水は、山国川堤防決壊時は国による対応、内水氾濫は町で対応することになっている。内水氾濫の場合、現在町にポンプなどの設備がないので、山国川河川事務所と関係機関と連携し、大型ポンプなどの応援要請をすることになる。

人口増の対策は

問 上毛町は、2040年までに人口1万人を目指し、その実現のために企業誘致、子育て支援の充実、上毛彩葉分譲地整備などに取組んでいる。今後、町は住宅建設や人口をどの程度増やしていく計画か。

堀企画情報課長 分譲地15箇所500区画を計画しており、1区画4人で2000人の人口増を目指している。現在の人口は7600人で人口1万人に届かないが、今後も検討を重ねて人口増対策に取組む。

問 近隣の市町村に負けない子育て支援として、高校卒業までの医療費の無料化を実施する考えがないか。

佐矢野長寿福祉課長 子育て支援は、他の自治体に引けを取っていないので、今のところ高校卒業までの医療費無料化は考えていない。

加齢性難聴者への補聴器補助は

問 厚生労働省の「介護予防マニュアル改訂版(平成24年3月版)」は、「閉じこもりは認知症の発症リスクとなっている可能性がある」とした上で、閉じこもりの身体的要因の一つに「聴力の低下」をあげている。補聴器の価格(15～30万円)は高いとの声もあり、町も補聴器購入の補助制度を創設する考えがないか。

佐矢野課長 認知機能の低下による意欲の減退、足腰機能の低下の方が閉じこもりの危険性が高いと考えている。認知症対策事業やフレイル対策事業など社会参加を促進し、閉じこもりを防止する事業に力を入れているため、今のところ補聴器の補助制度は考えていない。過去10年間で、身体障がい者、難病患者の方に32件補助している。

交通弱者への対策強化は

問 コミュニティバス最終便の運行時刻が午後2時頃の地域があり、病院や買い物帰りに不便を感じているがどうか。

岡崎課長 築上東部乗合タクシーとの連携を考えると変更は困難である。

問 以前、「全てのニーズに応えることは非常に困難であるが、現在様々な方面で検討している」と答えているが、この一年間にどのように検討され、実現のため、どのような課題が残されているのか。

岡崎課長 交通弱者のニーズには差異があり、社会福祉協議会の地域福祉会議などでニーズを把握しているので、現在検討中である。

問 特に東上の有田地区が困難だと思っているがどうか。

岡崎課長 通学の移動も含めて最重要課題として検討している。

▲コミュニティバス